



□トム・クリストファー展 23日
から4月11日まで、大阪市中央区の
ギャルリーためなが大阪☎06・6
949・3434。ニューヨークの空気感を
描き出す米絵画界の人気作家。イエローキヤ
ブなど風物を光輝ある色彩で描いた新作油彩
約30点を展示する。(写真は「Trouble
Begins When a Cabbie
Loses Patience」)



□トリック・アートの世界
4月11日まで(月曜休館、
ただし3月22日は開館し翌23
日休館)、三重県津市大谷町
の三重県立美術館☎059・227
・2100。スーパーリアリズム

美の

買遊学

清水秀作

2月に開かれた平山郁夫の「お別れの会」(日本美術院・東京藝術大学合同主催)に、26000人が献花に訪れた。79年の画家人生は、シルクロードをライフワークとし、国内外で取材を重ねた。絵の制作が、東西の文化交流の意義の確忍と意義であったことこそこ

和への思い

に刻まれた栄華ではなく、消え去った人々の痕跡に対する祈りは、悠久のロマンを秘めるものになった。文化財保護の発想もそこにあった。戦火に遭った広島やサラエボを描いても、写実画ではなく構想画で展開している。花鳥画や静物画を描かなかったのは、ストリートに自分の思いを伝えるために構想画を重んじたためか。作品は類型化し情感の薄れたものも見られるが、画面は、技術的なものを超えて、鑑賞者の胸に非戦・平和への強い思いを訴え